



彩虹



仙北市立生保内中学校
2年 学年通信
No. 6
令和5年4月14日

進級テストごくろうさまでした そこで実力テストの活用方法を紹介します

今日の進級テストごくろうさまでした。春休みの勉強の成果を十分に発揮できたでしょうか。さて、今2年生としてスタートしたばかりですが、これから3年生になって高校受験を行うまでは、実力テストを2年生では3回ぐらい、3年生では少なくとも8回は行うことになると思います。そこで実力テストが終わった後の活用方法について紹介します。3年生になってから特に意識してほしいのですが、2年生でこの勉強方法を試してみても、きっと効果があると思います。

和田秀樹の『受験は要領』—その1

実力テストを”力試し”と思っている限り実力はつかない

受験生にとって、試験はごく日常的な作業のひとつだ。そのためかえって試験をごく当たり前のことと考え、常識のワナにとらわれてしまうことが多い。試験に対する見方を、ほんの少し変えてみるだけで、受験勉強の能率はおおいに違ってくる。

この試験常識のウソのひとつに、実力テストは実力測定のための”力試し”という考え方がある。

これが大間違いなのだ。

受験生にとっての本当の”力試し”は、本番のテストだけだ。

むしろ実力テストは大事なところを暗記してしまう、いいチャンスと考えた方がいい。

というのは実力テストは、試験が終わると同時にすぐ解答が配られる。私はその日のうちに答え合わせをして、間違ったところ、ヤマカンで当たったところを洗い出し、その部分をすべて暗記してしまうようにした。要するに試験の復習をするわけだ。そうしておいてから1週間後、実力テストと同じ問題を、100点満点をとるつもりでもう一度やってみるのである。

この勉強は実に効果的だ。

なんといっても実力テストだから、暗記すべきポイントが凝縮されている。

結果的にヤマを知ることにもつながる。それに試験中は半日、集中して机に向かっているから、ふだんよりずっと記憶力も高まっており、でてきた問題も、よく覚えてしまう。下手に机の前に座って3日も4日も費やすより、ずっと短い時間で、凝縮された内容を暗記できる。

ところが、多くの受験生は、実力テストを単なる力試しだと思っているから、自分の点数が良からうと悪からうと、それでおしまいにする。こんなもったいないことはないと思う。

..... 中略

試験期間中は、勉強をする集中力が生まれているのだ。ふだんの受験勉強の中でも、この集中力のある状態に頭を持っていくのは、そう簡単なことではない。せっかく集中力のある状態になったのだから、その状態をくずしてしまうのはもったいないのではないか。いったんくずれた集中力をとりもどすのは、けっこう難しいものだ。テストが終わったら、のびのびと遊びたいのはやまやまだが、テスト後の1週間は、テスト問題を復習し、間違ったところなどを丸暗記するようにしたい。そうしておけば、一夜つげの努力が、一夜に終わらず、暗記の”貯金”をさらに増やすことができるのである。